



2025年12月4日木曜

兵庫県立大際商経学部教養課程講義のレポート

2026年2月16日

船橋知恵

12月4日木曜、県大で授業をおこないました。依頼者である小野原先生は旧知の仲で、「船橋さんがなぜ福祉職を選んだのかというエピソードを盛り込んでほしい」というご依頼でした。90分講義前半で話をし、後半は紙漉きワークショップをおこなうことにしました。

紙漉きワークショップキット[piipop paper]を作ってくれた神戸芸術工科大学の松田陽菜多さんもお呼びし、話をしてもらうことにしました。

講義は小さなゼミ室でおこなわれました。ワークショップをする必要があるので、作業机を用意していただき、車座になって前半の講義を聞いてもらいました。

まずは障害福祉サービスや福祉的就労の概要を話し、その後でわたしがなぜこの仕事に就いたかを話しました。障害を持つ人とともに仕事を作り、社会とつながっていくことがわたしにとってはとてもおもしろく、一人ひとりの利用者の方の人柄や才能にも興味が尽きないこと、とにかくとっても毎日楽しいというメッセージを発信しました。

配布した資料の最後に、このように書きました。

【障害を持つ人と働くということ】

- ・あなたがとくいなことは？/あなたが好きなことは？
- ・あなたのがてを、とくいとする人がいたりする
- ・でこぼこは平たくせず、だれかにうめてもらってOK
- ・じぶんだけでできないことも、
チームでやったらうまくいく
- ・わたしたちは紙を作って売って、いろんな場所に出ていく

「チーム」

- ・仲間をつくろう、そしておもしろいことをしよう。



このあとに piipop paper のワークショップをおこないました。材料として小野原先生のパンフレット廃紙を使います。実際に手を動かし始めると学生同士で話をしたり、わたしに話しかけてくれたりなど、双方向のコミュニケーションが生まれました。ワークショップは一人ひとり出来上がりが違うので、チームで楽しみながら成果物に愛着を持ってもらえたらと思いました。

後日、学生さんたちのレポートを小野原先生からいただきました。伝えたかったことは伝わったのでは…と思います。自分らしい人生について考えるきっかけになればと願っています。